

事務事業名	心の教室相談員配置事業				担当	教育委員会 学校教育課 学校教育係	
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			電話番号	0285-83-8181	
施策名	2	小・中学校の教育の充実			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ	
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 H16 年度～）	
予算科目	1.一般会計	10.教育費	3.中学校費	2.教育振興費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	平成15年度までは、県の委託事業、平成16年度から市の単独事業として実施している。生徒、保護者、教職員が悩み等を気軽に話し、ストレス等を和らげることのできる第三者的な存在となり得る者を学校に配置し、生徒等が心のゆとりを持てるような環境をつくるため、中学校に「心の教室相談員」を配置している。市内9中学校のうち、県のスクールカウンセラーが配置されていない4校（大内中、山前中、長沼中、物部中）に、心の教室相談員を配置し、学校支援相談員（真岡小、真岡東小、真岡西小）生徒へのカウンセリングや、カウンセリング等に関する教職員及び保護者への助言・援助を行う。 平成20年度から、臨床心理士の資格を持つ心理相談員を配置し、心の教室相談員との連携を図り相談体制の充実を図った。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 24年度実績 相談員1人週に12時間勤務相談員配置校4校で相談を受ける。 25年度計画 相談員配置校4校で実施		⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
		名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
		ア 心の教室相談員の年間勤務時間数（小・中各）	時間	1920	1542	1440	1440	1440
		イ 相談員数小学校					3	3
		ウ 相談員数		3	3	3	3	3
		エ 相談件数小学校		437	555	922	1952	-
		オ 相談件数中学校					1563	-
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 生徒、保護者、教員		⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
		名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
		ア いじめや不登校に関する相談件数		90	98	65	108	
		イ 保護者からの相談件数		10	18	29	95	
		ウ 教員からの相談件数		22	46	30	193	
		エ						
		オ						
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） いじめや不登校、人間関係等で悩みや問題を抱える生徒、保護者、教職員へのカウンセリングや助言等を行い、問題を解消する。		⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
		名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
		ア 別室登校できた件数			1	4	6	
		イ 適応指導教室に通級できた件数			1	4	20	
		ウ						
		エ						
		オ						
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） いじめや不登校、人間関係等で悩みや問題を抱える生徒、保護者、教職員へのカウンセリングや助言等を行い、不登校児童生徒が教室へ復帰できるよう指導する。		⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
		名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
		ア 教室復帰できた件数			7	2	2	
		イ						
		ウ						
		エ						
		オ						
(2) 総事業費の推移		単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	2,161	2,239	2,234	3,946		
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	30	30	30	30	
		人件費計(B)	千円	122	128	127	126	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	2,283	2,367	2,361	4,072	
							0	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	いじめや不登校等生徒の問題行動等に対応するため、学校におけるカウンセリング等の機能の充実を図ることが、現在の重要な課題となっていることから。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	不登校については、特定の子どもに起こることではなく、どの子どもにも起こりうようになってきている。 スクールカウンセラーが配置されたことから、心の教室相談員は、平成21年度では3名となった。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	いじめを受けている生徒や不登校の生徒は、普通に登校し、健全な学校生活を送りたいと訴えている。保護者、学校、地域からも同様の願いがある。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市の小中学校教育の施策である心の教育の推進に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 学校生活全般の中で、生徒が充実感を味わうことができるよう、いじめや不登校等の問題行動に適切に対応することは学校教育の一環である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 生徒、保護者、教職員を対象としたカウンセリング事業である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 4校に心の教室相談員を配置し、個別の相談に応じた適切な指導助言を行っている。このほか、市教委に心理相談員を配置し、特別な事案に対応している。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 不登校や心に悩みを抱える生徒への対応が十分にできなくなる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 報酬のみであり、必要最小限の経費である。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 報酬の支払事務等、必要最小限の事務である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある いじめや不登校等の問題行動に適切に対応することは、中学校教育における重要な施策の一つである。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							